

I 学校経営の基調

1 令和5年度の経営に当たって

(1) 学校の生い立ちと歩みについて

昭和41年4月1日、鶴舞東小学校、南内越小学校、松ヶ崎小学校深沢分校の3校が統合して「本荘市立新山小学校」が誕生した。開校当時は、新山小学校東校舎（本荘市出戸町字尾崎17、旧鶴舞東小学校校舎、在籍868名）、同南内越校舎（本荘市川口字愛宕山1150、旧南内越小学校校舎、在籍277名）の2校舎に分かれて授業を行った。そして、同年8月に現在の校舎が完成し、9月6日に入校式を行った（この日を開校記念日に指定）。昭和54年には、グラウンド脇に3階建て新校舎が増築され、9教室が増設された。平成17年3月22日、由利本荘市の誕生により、「由利本荘市立新山小学校」と改称した。平成22年には体育館を解体し、現体育館が建設された。平成25年4月1日、北内越小学校閉校により22名が編入する。平成27年3月にはコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域と共にある学校づくりを推進している。

校舎の老朽化に伴い、令和3年6月から新校舎の改築工事が始まった。そして令和4年9月、中庭があった場所に4階建て普通教室棟が完成した。翌月の10月には、通常学級の教室と第1・第2理科室、保健室が新校舎に引っ越し、新たな校舎での学びをスタートさせた。その後、令和6年9月までに新管理・特別教室棟の建設と現特別教室棟・普通教室棟の解体、そして、令和8年6月にかけて、現低学年棟・管理棟の解体、プール改修、駐車場整備を行い、新校舎の改築工事が完了する計画になっている。

(2) 地域と子どもの実態について

本校が立地する石脇地区は、前面に子吉川、背後に新山を背負い、岩城亀田藩の川港町として発展してきた。特に北前船による湊としても有力な町場で、土蔵が建ち並ぶ人口集住度の高い地域であり、現在も当時の面影を残す切り妻の町屋が点在している。

子どもたちは、新山公園の懐にいだかれた豊かな自然の中で伸び伸びと学んでいる。子吉川カヌー体験、地域の企業や商店への訪問、石脇地区へ松の植林を行った石川善兵衛の偉業を学ぶ学習など、地域の自然や歴史、文化を生かした学習が充実している。また、野菜づくり、うどんづくり、放課後子ども教室（キピー）での「英語・韓国語・中国語教室、踊り、パソコン教室」など、子どもたちの学びを支える人材も豊富である。

本校の児童数は開校時1145名、昭和58年からの3年間は1400名を超えていたが、少子化の進展によって年々児童数が減少し、今年度は640名でのスタートとなった。保護者や地域の方々には、本校の教育に対して高い関心と期待をもっており、PTA活動やその他の諸活動においても積極的にに関わり、協力的である。

明るく素直で、様々な活動に意欲的に取り組む子どもが多く、「気づく心、がまんする心、親切にする心」を磨く「気づきの清掃」も、学校生活の一部として定着し、ある程度誇れる状態になっている。しかし、基本的な生活習慣が身に付いていなかったり、粘り強く物事に取り組んだりすることが苦手な子どももいる。昨年度の教職員の経営反省の評価や保護者アンケートでは、「あいさつ」と「規範意識」が共通の課題として挙げられた。学力においては、昨年度の12月の県学習状況調査や総合学力調査の結果から、全国平均以上、県平均程度の学力は身に付いていることが分かる。しかし、学年差があり、同一学年においても学級差があることなどから、学年部体制を重要視し、授業力の向上を目指して取り組んでいく必要がある。

(3) 今年度の経営について

新型コロナウイルス感染症は収束傾向にあり、感染症法上の位置付けが5月8日より5類に引き下げられた。このことにより、コロナ禍前の教育活動が可能になりつつある。単にコロナ禍前に戻すのではなく、活動のねらいを確認しながら効率的・効果的な教育活動を展開していく。

令和4度から、学校の教育活動全体で育てる資質・能力として「気付く力、協働する力、調整する力」を設定した。それぞれの資質・能力は、次のように捉える。

- ・ 気付く力……身の回りに関心をもち、そのよさや違い、価値などに気付く力（自分の周りを見つめる、問いをもつ、課題が分かる、想像力を働かせる、気を配る、自分や周りの人のよさに気付く、多様性のおもしろさや成長を実感する）
- ・ 協働する力…目的意識をもち、他者と協働して高め合う力（人と関わり共に考えようとする、多様性を受け入れる、考えを伝え合う、地域や人の役に立つことに喜びを感じる）
- ・ 調整する力…生活を整え、目的に応じてコントロールする力（生活・心・身体を整える、考えや行動等を見直す、粘り強く取り組む、よりよい方法を取り入れようとする）

「さわやか新山」を合い言葉に、これら3つの資質・能力を育てることで「おもいやる子、かながえる子、きたえる子」の具現化に向けて取り組んでいく。

児童数の減少に伴い、今年度の通常学級は2・4・5・6年生が4学級、1・3年生が3学級となり、全ての学年が同じフロアに教室を配置することができた。壁の開閉を円滑に行うことのできる新校舎（普通教室）の構造を生かし、教室をオープンにして開放的な空間を活用して教育活動を行うことを基本とすることで、学年部で日常的に取組を共有し、協働し学び合う学年部体制を強化する。また、教室前の学年スペースを有効活用して毎週火曜日の朝の活動で学年集会を開催することで、学年への所属意識を高め、学年部全体で学年の児童を育てるという意識で指導に当たるようにする。

2 学校教育目標と目指す姿

(1) 学校教育目標

生きる力を身に付け、自立しようとする新山健児の育成
～おもいやる子・かんがえる子・きたえる子～

(2) 目指す子ども像

- ① 身の回りに関心を持ち、そのよさや違い、価値などに気付く子ども
- ② 目的意識を持ち、他者と協働して高め合う子ども
- ③ 生活を整え、目的に応じてコントロールする子ども

(3) 目指す学校像（学級像）

- ① 子どもたちが生き生き活動し、成長を実感できる学校（学級）
 - ・ 子ども一人一人を丸ごと受け入れ寄り添う指導
 - ・ 規範意識やマナーを基盤にした子ども主体の教育活動の展開
- ② わくわく、分かる授業の研究と実践を大事にする学校（学級）
 - ・ 学校の命は授業、授業を大事にする教師集団
 - ・ 学校全体に流れる共通実践
- ③ 子ども・保護者・教師が共に満足感をもつことができる学校（学級）
 - ・ 子ども一人一人が大切にされる集団
 - ・ 地域や保護者と共に歩む学校（学級）

(4) 目指す教師像

- ① 子どもの姿に責任をもつ教師
- ② 子どもの可能性やよさを見付け、子どもに寄り添い支えつなぐ教師
- ③ 「分かる」「できる」学習や体験を積み重ね、子どもの自己肯定感を高める教師

3 学校経営の基本方針と経営の重点

(1) 気付く力、協働する力、調整する力の育成

- ① 基本的な生活習慣の定着、「気づきの清掃」の推進
- ② 自己指導能力を育てる生徒指導の三機能を生かした指導
- ③ 自己有用感を育む係活動、当番活動、児童委員会活動
- ④ 一人一人のよさを認める学年・学級づくり

(2) 学び合い磨き合う学年部体制と同僚性の保持・向上

- ① 共通理解に基づいた共通実践（学年部会・学年集会）
- ② 共感的な人間関係に支えられた学年・学級づくりの推進
- ③ 人事評価・研修履歴を活用した教職員の資質能力の向上
- ④ 初期層研修を活用したOJTの充実

(3) 学びの自覚（問いをもち、求めて学ぶ）を支える授業づくりの推進

- ① 子どもと共有、更新していく単元プランの構築
- ② 身に付けた資質・能力を自覚し、子どもが求めて活用する場の設定
- ③ 問いを引き出し、考えるすべを進んで用いる学習活動の工夫
- ④ 子どもの学びの過程を見取り、教科等の見方・考え方を働かせた学習活動の工夫

(4) 家庭や地域と共に歩む開かれた学校づくり

- ① 積極的な情報発信による家庭・地域との行動連携強化
- ② 学校運営協議会や保護者・地域ボランティアとの協働
- ③ 地域社会に開かれた教育課程の推進
- ④ 学校評価や保護者アンケートを活用した経営改善の推進